

リスクマネジメントセミナーの開催～自社を取り巻くリスクを把握し、適切な対応を行うために～

新型コロナウイルスのまん延や自然災害、サイバー攻撃など、企業活動に影響を及ぼすリスクは多岐に亘っています。リスク発生後の対応によっては顧客の離脱や資金繰りの悪化など、影響が拡大する恐れがあります。そうした損害を可能な限り小さくするためには、事前の備えが重要です。

中部地域局では、企業経営に役立てていただくためのリスクマネジメント連続セミナーを、オンラインで開催しています。リアルタイムで参加できなかった方のために、終了したセミナーの動画を公開します。

■第1回（令和3年2月2日開催）

自社を取り巻く災害リスクを知り備えるべきリスクと対応を考える

講師/高橋孝一氏（SCMPOリスクマネジメント(株)首席フェロー）

1. 経営とリスクマネジメント
(企業のリスク全体像と災害や事故のリスク事象)・・・P4～9
2. 中小企業・小規模事業者の災害時に必要な経営資源
・・・P10～12
3. 中小企業・小規模事業者の災害対応(事前対策)
・・・P13～33
4. 問い合わせ先

■第2回（令和3年2月3日開催）

先進事例に学ぶ新型コロナウイルス感染症対策

事例発表者/西光エンジニアリング(株) 岡村代表取締役
(株)焼津冷凍 松村代表取締役社長

中部地域の企業経営者に、新型コロナウイルス感染症への対応や、感染症BCP等について紹介していただきました。



■第3回（令和3年2月25日開催）

with コロナ時代のサイバーセキュリティ対策

講師/畑田康二郎氏（(株)デジタルハーツ事業推進本部副部長）

- | | |
|-------------------|---|
| サイバー犯罪について学ぶ | <ul style="list-style-type: none"> 日増しに増加するサイバー犯罪 サイバー攻撃・・・誰が行っているのか？ 日本年金機構の例 |
| コロナ禍とサイバー攻撃 | <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍に伴うEmotetの再流行 テレワーク等の働き方を狙った攻撃が新たな脅威に サプライチェーン攻撃・脆弱な組織が狙われている |
| サイバーリスクにどう対処すべきか？ | <ul style="list-style-type: none"> 中小企業サイバーセキュリティお助け隊（実証事業） 実証事業終了後のサイバーセキュリティ強化運動 サイバーセキュリティリスクにどう対処するか |

■第4回（令和3年3月8日開催予定）

風水害の被災企業経営者が語るBCP策定のすすめ

平成30年9月の台風24号により被災した県内企業経営者に、災害時の状況やBCPの効果など実体験を紹介していただきます。

見逃し配信、第4回受講のお申込みはこちらから

<https://forms.gle/sTUcAma4WsVAg6mi7>



自転車安全運転のためにチェックしましょう

4月からの新生活、自転車通勤を考えていたり、家族の中に自転車通学になる人がいたりするのではないのでしょうか。自転車事故の約6割は自転車側の違反によるものです。事故に遭わない、起こさない、快適な移動をするためにも安全運転をいつも心がけましょう。

自転車安全運転のためのチェックリスト

↓できていたら、チェックしましょう。



	交通ルール	自転車の保険には加入していますか？ →令和元年10月1日から自転車保険への加入は義務化されています。
		自転車に乗る際は、ヘルメットを着用していますか？
		定期的に自転車を点検していますか？
		天候や季節への備えはしていますか？
		自転車の通勤、通学経路は事前にチェックしていますか？
		交差点での一時停止、安全確認はしていますか？

中部防災だより NO.7

令和3年
春号

トピックス

- ・東日本大震災から10年
- ・津波対策「防ぐ」「逃げる」「備える」
- ・リスクマネジメントセミナー開催
- ・自転車安全運転



編集・発行
静岡県中部地域局
藤枝市瀬戸新屋362-1
藤枝総合庁舎本館2階
TEL 054-644-9104
Mail chubu-kiki@pref.shizuoka.lg.jp

東日本大震災から10年をむかえます

今年の3月11日で、東日本大震災発生（平成23年）から10年となります。

先月13日に福島県沖で発生したマグニチュード(M)7.3の地震は東日本大震災の余震と考えられており、余震では6人目となる死者も出ました。『災害は忘れた頃にやってくる』と言います。東日本大震災から10年となる節目に、震災の記憶を呼び戻し、防災について改めて考えてみましょう。

東日本大震災は、どのような災害だったのでしょうか？



出典：岩手県宮古市

津波から助かった方々の話

- ・津波のある地域には「てんでんこ」という言葉があります。まずは、自分の命が大切です。てんでばらばらでもいいから、とにかく逃げようという教えです。
- ・まずは、どんなことがあっても高台に避難することです。この経験を伝え続け後世に生かしてほしいです。

内閣府 防災情報のページ「みんなで減災」



東日本大震災の概要

〈本震〉

日時 : 2011年3月11日(金) 14時46分頃発生
震源 : 宮城県牡鹿半島の東南東沖130km付近
最大震度 : 7 (宮城県大崎市)

〈特徴〉

- ・マグニチュード9.0 (日本国内観測史上最大規模)
- ・観測不能の大津波 (高さ8.5m以上)
- ・約2万人の犠牲者 (9割以上が津波による溺死)
- ・原子力発電所事故による複合災害
- ・多数の避難者 (令和3年2月8日現在約4万1千人)

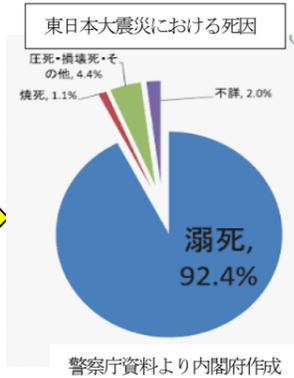
【参考資料等】

国土交通省東北地方整備局 震災伝承館

<https://infra-archive311.jp/pic.html>

復興庁 HP

<https://www.reconstruction.go.jp/>



津波対策推進旬間 『地震だ、津波だ、すぐ避難！ ～少しでも早く、少しでも高く～』

静岡県では、東日本大震災を機に、3/11を含む10日間（今年度は3/6～3/15の10日間）を津波対策推進旬間と定め直しました。

今年は新型コロナの感染拡大防止のため、県下一斉の避難訓練は行われませんが、県防災アプリ『静岡県防災』の避難トレーニング機能を活用すると、避難の際の所要時間や移動距離等を測りながら、訓練をすることができます。

ご家族や事業所での訓練にご活用ください。



「静岡県防災」のダウンロードはこちらから↓



津波対策 防ぐ 逃げる 備える

『海水浴場では・・・』



海岸で赤と白の格子模様のこの旗を見かけたら、津波警報等が発表されたことをお知らせする合図です。急いで海から離れて、高い場所に避難をしましょう。

写真：日本ライフセービング協会提供

地震発生時、津波はあっという間にやってくるので、津波が見えてから避難を始めたのでは間に合いません。皆さんのご自宅や会社がどの様な場所にあるか確認して「事前に避難する方法」を考えておくことが、とても大切です。そこで、防潮堤や津波避難施設の事例から、皆さんに参考となる情報を紹介します。

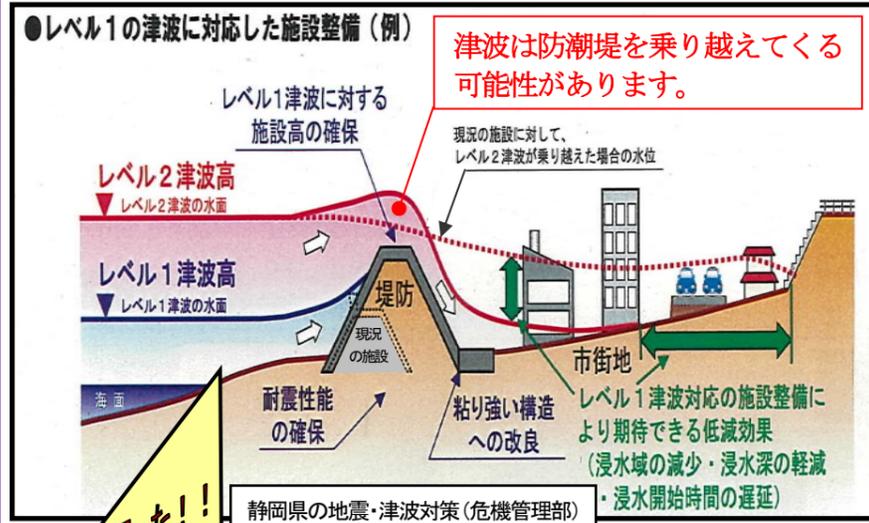
ハザードマップで津波浸水域や避難場所などを確認しましょう。ハザードマップは各市町のホームページから閲覧できます。



『防潮堤』がある場所でも、地震の揺れを感じたらすぐに避難！

重要!

東日本大震災のような超巨大地震が発生すると、津波が防潮堤や河川堤防を乗り越えてくる可能性があります。地震を感じたら、速やかに避難ビル等の安全が確保できる場所へ避難を開始してください。



津波は防潮堤を乗り越えてくる可能性があります。

【レベル2津波】

- ・ 南海トラフ巨大地震 (内閣府 2012)
- ・ 発生頻度は極めて低い
- ・ 発生したら甚大な被害をもたらす、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波

【レベル1津波】

- ・ 東海地震等、これまでの想定
- ・ 発生頻度が比較的高い
- ・ 発生すれば大きな被害をもたらす地震・津波

できるだけ早く、近くの『津波避難施設や高台』に避難！

重要!

避難は徒歩が基本です。この機会に、自宅や職場からの避難場所、避難経路、避難にかかる時間等を、実際に歩いて確認しておきましょう。



海岸付近で地震の揺れを感じたとき

(長い時間ゆっくりとした揺れを感じたときも)
(大津波警報・津波警報が出たときも)



ただちに



高台や津波避難施設へ

津波の指定緊急避難場所へ避難

※各市町で指定緊急避難場所(津波避難施設や高台)が設定されています。

避難にあたっては

- より早く、高い所へ避難する
- 徒歩により避難する
 - ・ 自動車による避難は原則禁止 (→交通渋滞が発生し、避難が遅れる等のため)



普段から、すぐ避難できるように

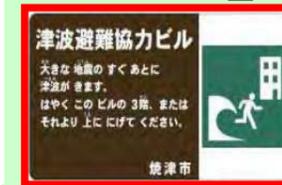
- ★ 建物の耐震化、家具の固定など、日頃の安全対策をしておく
- ★ 避難場所の確認をしておく

『津波避難施設の種類』



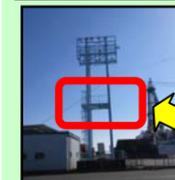
津波避難ビル

高さや耐震性が確保できる公共施設や民間の建物を「津波避難協力ビル」として指定し、津波からの一時避難場所の確保が進められています。焼津市など、3階以上の建物の所有者に協力してもらい、外付けの避難階段を設置し、より多くの津波避難ビルの確保を進めています。



津波避難タワー

吉田町では、津波浸水域内で住民の皆さんが5分以内に避難できるよう、15基の津波避難タワー(歩道橋型)が設置されています。階段を登る際、車椅子の方など、要配慮者の避難を支援する訓練も行われています。



湾内で働く方々の避難場所確保のために、照明施設を避難タワーとして活用しています。



困った!!

『万が一の場合には・・・』
夜間や休日に無人となる公共施設では、ガラスを割ってカギを開け、津波避難ビルとして活用する工夫が施されています。

国土地理院指定緊急避難場所データはこちらから↓
<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/hinanbasho.html>



命山(避難マウンド)

用地が確保できる場所では、半永久的に使用できる命山の整備が進められています。スロープが整備されており、階段を上るのが大変な方々の苦勞を和らげます。夜間の避難に備え照明が整備されていますが、もちろん、懐中電灯等は自らも準備をしておきましょう。



夜間避難訓練

『防潮堤の海側いた場合は・・・』



この陸間は、津波警報発表時等緊急の場合には防災対策のため閉鎖されます。陸間内に残された場合は、右の避難はしごを利用してください。

コンクリート擁壁の防潮堤は震度5以上を観測すると、陸間が自動で閉まる仕組みになっています。

もし、海側に残ってしまった場合は、近くの階段や避難はしごを利用してすばやく陸側に避難をしましょう。

『防潮堤の工夫』

防潮堤を活用した公園整備

防潮堤が公園や散歩コースとしても使えるように整備を進めるなど「防災」に「町の賑わい」を加味した海岸線の環境整備を進めています。



いのちを守る森づくり

高上げた防潮堤には、潮風に強いマツや地域に根ざした樹木などを植えているところもあります。

森は緑の壁となり津波の威力を減退させます。

